

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
平成 25 年度 事業報告
(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)

I 事業概要

平成 25 年度事業計画に基づき、地域連携をより強く意識しながら、「事故、災害の防止やご被害者、ご被災者支援に直結する事業」を多面的に推進してきた。

1. 心身のケアに関わる事業

(1) グリーフケアに関わる人材養成講座への助成（上智大学グリーフケア研究所の寄付講座）

誰もが安心して悲嘆等に伴うこころのケアを受けられる社会を目指し、グリーフケアに関する専門知識・技能を持って実践に携わる人材や地域社会においてグリーフケアを提供する市民ボランティアを養成している上智大学グリーフケア研究所の人材養成講座に対し、寄付助成を行っている。

同講座はステップアップ方式となっており、平成 25 年度は「グリーフケア基礎コース」（グリーフケアの基礎知識や基礎的な対人援助スキルを習得）、「グリーフケアボランティア養成コース」（グリーフケアに関わる臨床現場で必要な知識、技術を習得）、「グリーフケア専門コース」（グリーフケアとスピリチュアルケアの実習と演習）の 3 つのコースが開設され、各コース合計で 72 名が修了した。

(2) 心身のケアに関する啓発活動

①連続講座「『いのち』を考える」の開催

平成 24 年度に引き続き、死や悲嘆、グリーフケアといったテーマはもとより、多様な観点から「いのち」に焦点を当て、ともに考える 1 期 10 回の連続講座を 2 回にわたり開講した。

- ・第 3 回連続講座 開催概要（会場：関西国際大学尼崎キャンパス、開催時間：18:30～20:00）
- ・参加者数：のべ約 3,700 名

| 日付 | 講師 | |
|----------|-------|----------------------------|
| 5/ 8 (水) | 青木 新門 | 作家、詩人 |
| 5/15 (水) | 細谷 亮太 | 聖路加国際病院小児総合医療センター長 |
| 5/22 (水) | 伊藤 高章 | 桃山学院大学教授 |
| 5/29 (水) | 田村 恵子 | 淀川キリスト教病院看護部主任課長、がん看護専門看護師 |
| 6/ 5 (水) | 田中 幸子 | 「全国自死遺族連絡会」世話人 |
| 6/12 (水) | 大井 玄 | 東京大学名誉教授 |
| 6/19 (水) | 島菌 進 | 上智大学教授、上智大学グリーフケア研究所所長 |
| 6/26 (水) | 河邊 貴子 | 聖心女子大学教授 |
| 7/ 3 (水) | 柏木 哲夫 | 金城学院学院長、淀川キリスト教病院名誉ホスピス長 |
| 7/10 (水) | 水谷 修 | 花園大学客員教授、関西大学客員教授 |

- ・第4回連続講座 開催概要（会場：関西国際大学尼崎キャンパス、開催時間：18:30～20:00）
- ・参加者数：のべ約3,200名

| 日付 | 講師 | |
|----------|----------|-----------------------|
| 10/ 4(金) | 徳永 進 | 野の花診療所院長 |
| 10/11(金) | 大西 秀樹 | 埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科教授 |
| 10/18(金) | 香山 リカ | 精神科医、立教大学教授 |
| 10/25(金) | 坂下 裕子 | こども遺族の会「小さないのち」代表 |
| 11/ 1(金) | 柏木雄次郎 | 関西福祉医科大学教授、日本緩和医療学会理事 |
| 11/ 8(金) | 入佐 明美 | ボランティア、ケースワーカー |
| 11/15(金) | 葉 祥明 | 絵本作家、画家、詩人 |
| 11/22(金) | 市原 美穂 | 特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎理事長 |
| 11/29(金) | カール・ベッカー | 京都大学こころの未来研究センター教授 |
| 12/ 6(金) | 高木 慶子 | 上智大学グリーンケア研究所特任所長 |

② 「いのちのセミナー」の開催

「いのち」をテーマとした講演を通して、私たち一人ひとりが「いのち」と向き合い、「生きる力」を得ることができるような場として開催した。

<実施概要>

日 時：平成26年3月21日（金・祝） 13時30分～16時00分

場 所：松下IMPホール

内 容：「3年10日、東日本大震災の遺児たち」あしなが育英会東北事務所長 林田 吉司
「リスク社会の絆といのち」 聖学院大学全学教授 姜 尚中

参加者：680名（応募者：2,920名）

2. 地域社会の安全構築に関わる事業

(1) 「安全セミナー」の開催

地域社会における安全構築の重要性を踏まえ、企業や行政活動、市民生活における安全確保や事故防止に資するテーマを取り上げ、「安全セミナー」を開催している。平成25年度は、引き続き参加者の関心・ニーズが高い「ヒューマンファクター」をテーマに取り上げ開催した。

<実施概要>

テーマ：『ヒューマンファクター』から考える安全

日 時：平成25年9月2日（月） 13時30分～16時30分

場 所：あましんアルカイックホール・オクト

内 容：「交通心理学と事故防止」帝塚山大学副学長・心理学部教授 蓮花 一己

「居眠り事故防止と安全管理」広島大学大学院総合科学研究科教授 林 光緒

参加者：700名（応募者：900名）

(2) 初期救護の重要性に関する普及啓発活動の実施

駅ご利用者をはじめ地域住民の方々に手軽にAEDの使用や心肺蘇生法、駅ホームや踏切の非常ボタンなどを実体験いただくことで、広く市民による初期対応や初期救護（ファーストエイド）の重要性を啓発し、市民の自助、共助意識を涵養するため、JR西日本や消防、NPO、地元自治会等と連携・協力し「救急フェア」等を開催している。また、平成 25 年度から毎月 9 日にAEDの取り扱い方法の体験に特化した「救9の日 エキデモAED」も実施した。

| | 開催回数 | 参加者数 | うちAED等体験者数 |
|---------|------|---------|------------|
| 救急フェア | 15 回 | 3,400 名 | 800 名 |
| エキデモAED | 25 回 | 2,700 名 | 1,800 名 |
| 合計 | 40 回 | 6,100 名 | 2,600 名 |

3. 「安全で安心できる社会」の実現に関わる事業

(1) あしなが育英会への助成

事故や災害、病気等様々な理由で親をなくした子どもたちへの心のケア活動の一環として取り組んでいるあしなが育英会が主催する「高校奨学生をつどい」及び小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」に対し、寄付助成を行っている。平成 25 年度は、関西北陸地区における「高校奨学生をつどい」が8月9日から12日まで、総勢 323 名の高校奨学生及びリーダー役・運営スタッフとしての先輩奨学生たちが参加し開催された。また、小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」が8月25日から27日まで、総勢 90 名の子どもたち及び学生ボランティアが参加し開催された。

(2) 関西いのちの電話及び神戸いのちの電話への助成

心のケアのより一層の充実・増進を図るため、福知山線の沿線地域で市民からの電話相談事業に取り組んでいる関西いのちの電話及び神戸いのちの電話における電話相談員のスキルアップやメンタルケアに関する活動に対し、寄付助成を行っている。平成 25 年度は、各団体において専門家による実践的な知識、スキルの向上に向けた教育、研修やメンタルケアが行われた。

(3) 地域における各種活動等に対する支援協力

当財団では上記のほか、財団の設立趣旨に合致し公益性や社会的必要性が高いと認められる活動に対し協賛を行っている。平成 25 年度は、京阪神に拠点のある遺族会が個々の遺族会のレベルアップを目指して実施する勉強会を盛り込んだ交流会に対して協賛を行った。

4. 公募助成事業

(1) 「平成 26 年度公募助成（活動及び研究）」の実施（募集、審査、決定）

当財団では、設立初年度より、事故・災害に対する備えやその後のケアに関連する活動・研究を対象とした公募助成を実施している。

平成 25 年度は、平成 26 年度に行われる活動や研究を対象とした助成事業の公募を実施した。応募件数 123 件について審査した結果、54 件、4,900 万円の助成を行った。これまで 25%程度であった採択率の向上を目指し、活動助成の上限額を 100 万円から 70 万円に減額した結果、44%と大きく改善することができた。

平成 26 年 3 月には、助成対象団体や研究者の方を対象に公募助成贈呈式を開催するとともに、助成先相互のネットワークづくりを目的に交流会を実施した。

[実績]

| | 応募件数 | 助成実績 | |
|-----------|-------|------|----------|
| | | 件数 | 金額 |
| 活動助成 | 48 件 | 27 件 | 1,616 万円 |
| 活動助成（特別枠） | 32 件 | 14 件 | 886 万円 |
| 研究助成 | 43 件 | 13 件 | 2,398 万円 |
| 計 | 123 件 | 54 件 | 4,900 万円 |

(2) 第 3 回公募助成活動発表会

助成活動の成果の社会的還元や助成先同士の交流などを目的に、平成 24 年度に実施された助成活動の成果発表を行う「活動発表会」を開催した。

<実施概要>

日時：平成 25 年 10 月 6 日（日）

[発表会] 14 時 00 分～16 時 00 分（ステージ発表）

[交流会] 16 時 15 分～17 時 45 分（ポスター発表含む）

場所：ウェスティンホテル大阪

発表者：37 団体（ステージ発表 7 団体、ポスター発表 30 団体）

参加者：80 名（発表団体、聴講者、役員、スタッフ）

II 財団運営に関わる事項

1. 機関運営（評議員会、理事会、事業審査評価委員会の開催）

(1) 評議員会

開催回数：1回

決議事項等：平成24年度計算書類等の承認、評議員の選任、理事の選任、監事の選任 等

(2) 理事会

開催回数：5回

決議事項等：理事長による業務執行状況等のほか、以下の事項について決議を行った。

平成24年度事業報告及び計算書類等の承認、事業審査評価委員会委員の選任、評議員会の招集、代表理事及び業務執行理事の選定、「平成26年度公募助成（活動・研究）」の基本方針及び助成先の承認、平成26年度事業計画及び収支予算の承認、基本財産の運用基本方針の承認 等

(3) 事業審査評価委員会

開催回数：6回

審議事項等：理事長からの諮問に基づき、以下の事項について審議を行い、理事長へ答申を行った。

平成24年度助成事業の実績・成果等の確認評価、財団主催事業の実施に関する指導・助言、「平成26年度公募助成（活動・研究）」の募集内容に関する指導・助言、平成26年度助成先の審査 等

2. その他

(1) 基本財産の運用

基本財産20億円は、西日本旅客鉄道株式会社の無担保社債（20年物）により10億円、国債（20年物）により10億円を継続して運用した。

(2) 広報活動および情報公開

当財団のホームページにおいて、財務資料等の基本情報の開示や財団事業の実施概要、実施結果等の公表を行った。また、事業実施時におけるプレス発表のほか、JR主要駅へのポスター・パンフレットの掲出、財団紹介用パンフレットの製作・配布、広報誌「Relief」の発行（平成25年5月、8月、11月、平成26年2月）に加え、平成26年度公募助成の募集に合わせた広報（新聞広告）など、財団事業及び財団そのものの認知度向上のための広報活動に努めた。